

# INFORMATION

## 時間が無い社会人の方にオススメ！ 中小企業診断士30!!

教材フル装備!

情報量そのまま!

60分講義を実現!!

仕事が忙しくて学習時間の確保が難しかった方にオススメのコースです!

従来の講義内容をそのまま1講義60分に凝縮している  
ので社会人の方が無理なく1次試験合格を目指せます。  
科目別に受講もでき、中小企業経営・政策なら2時間で基礎講義をマスター!

### 各科目の基礎講義時間

経済学・経済政策	財務・会計	企業経営理論	運営管理
4時間	9時間	5時間	4時間
経営法務	経営情報システム	中小企業経営・政策	トータル講義時間
3時間	3時間	2時間	30時間

## アウトプットを中心に学習！ 1次科目別経験者合格コース!!

必要な科目だけ選択して受講できる学習経験者専用の1次試験対策コースになります。  
短時間で効率的な学習ができる中小企業診断士30のWebフォローを特別価格で受講できる特典付き!

## 今から間に合う2次合格法セミナー 8/4(日)～配信開始!

1次試験後からスタートしても間に合う2次試験の合格法をご紹介します!  
これから2次試験対策をお考えの方は必見のセミナーです!!

最新情報や講師メッセージを  
ツイッターでお届けします!

フォロー  
お願いします



### ① 運営管理(オペレーション・マネジメント)

#### 【総評】

令和元年度の本試験は、運営管理44問(昨年44問)のうち、22問が生産管理(昨年22問)、22問が店舗・販売管理(昨年22問)であり、例年通り偏りのない出題内容であった。また、5肢択一の問題が生産管理2問(昨年1問)、店舗・販売管理17問(昨年13問)であり、さらに、昨年に引き続き、計算関連の問題が10問(生産管理分野8問、店舗・販売管理分野1問)と多かったことが特徴である。また、単なる知識や特徴に関する問題だけでなく、昨年同様に、その場で内容を把握し、解答を導く問題や時事的な問題もあったため、制限時間いっぱいを使って解かれた方も多かったと思われる。

店舗・販売管理の難度が高かったため、全体としては昨年と同様に難度が高かったと思われる。基本事項に関する問題において確実に正解できたかで得点が左右されると思われる。

#### (生産管理)

第1問から第21問までの生産管理では、過去18年間の頻出論点であるI E、工場計画、工程管理は、例年どおり出題された。個別には、第1問、第2問、第3問、第6問、第7問、第8問、第9問、第10問、第11問、第12問、第13問、第17問などで得点を取りたいところである。第14問は、「観測開始時点のストップウォッチの目盛りは5 DM」「作業1に関する下記の設問」という問題文を見落とさなければ正解できたと思われる。ただし、生産管理分野は、昨年度よりは難度は低下したと思われるため、この分野で得点を稼ぐことができたかがポイントとなるであろう。

#### (店舗・販売管理)

第22問から第43問までの店舗・販売管理では、過去18年間の頻出論点である店舗関係法規、物流管理などが今年度も出題された。しかし、第24問(立地適正化計画)、第25問(防火管理)、第26問(食品リサイクル法)、第27問(空き店舗)、第29問(酒類や医薬品などの販売制度)などは対応が難しかったと思われる。また、頻出していたGMROI・交差主義比率などの計算問題も出題されなかった。個別には、第28問、第33問、第35問、第36問、第37問、第39問、第40問、第41問などで得点を取りたいところである。ただし、例年は、店舗・販売管理分野のほうが得点しやすかった傾向であったが、今年度は対応が難しい問題が多かったため、難度は生産管理分野よりも高かったと思われる。

# 【的中問題！】 一部ご紹介致します！

## 大原：公開模擬試験－第8問

### 第8問

生産管理方式にはさまざまな方式があるが、生産座席予約方式に関する記述として、最も適切なものはどれか。解答は問8へマークせよ。

- ア 製造命令書を発行する時に、その製品に関するすべての加工と組立の指示書を同時に準備し、同一の製造番号をそれぞれにつけて管理する方式である。
- イ 受注時に、製造設備の使用日程・資材の使用予定などにオーダーを割り付け、顧客が要求する納期通りに生産する方式である。
- ウ 生産工程にある製品に顧客のオーダーを引き当て、製品の仕様の選択又は変更をする生産方式である。
- エ 生産計画情報、部品構成情報及び在庫情報に基づいて、資材の必要量と時期を求める方式である。

## 本試験：第6問

### 第6問

生産座席予約方式に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 外注に際して発注者が、外注先へ資材を支給する方式である。
- イ 組立を対象としたラインや機械、工程、作業員へ、1つの組立品に必要な各種の部品を1セットとして、そのセット単位で部品をそろえて出庫および供給する方式である。
- ウ 受注時に、製造設備の使用日程・資材の使用予定などにオーダーを割り付けて生産する方式である。
- エ 製造命令書を発行するときに、その製品に関する全ての加工と組立の指示書を同時に準備し、同一の製造番号をそれぞれに付けて管理を行う方式である。

## 大原：公開模擬試験－第20問

### 第20問

T P M (Total Productive Maintenance) の定義に関する記述として、最も不適切なものはどれか。解答は問20へマークせよ。

- ア 生産現場に限定された従業員が主体的に参加して行う活動である。
- イ 生産システム効率化を極限まで追求する企業の体質づくりを目標としている。
- ウ 小集団活動により、ロス・ゼロを達成するための生産保全活動である。
- エ 生産システムのライフサイクルを対象として、災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロなどあらゆるロスを未然防止する仕組みを現場現物で構築する活動である。

## 本試験：第20問

### 第20問

TPM に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 製品のライフサイクル全体を対象とし、災害ロス・不良ロス・故障ロス等あらゆるロスを未然に防止するしくみを構築する。
- b 設備効率化を阻害している7大ロスを時間的ロスの面から検討し、設備の使用率の度合いを表した指標が設備総合効率である。
- c 経営トップから現場の作業員まで全員参加の重複小集団活動を行うことが特徴で、職制にとられない自主的なサークル活動である。
- d ロスを発生させないために行う活動の1つが計画保全活動で、設備が停止した場合の損失影響度を複数の角度から設備評価基準に基づいて評価し、最適保全方式を決める。

### 〔解答群〕

- ア aとb
- イ aとc
- ウ aとd
- エ bとc
- オ bとd